

第5回ごみと水を考える集いからのアピール

本日、清須市庄内川水防センター（みずとびあ庄内）に、山、川、里、海で活動する市民団体・行政等35団体70人が参加して、第5回「ごみと水を考える集い」を開催しました。

私たちは、四日市大学千葉教授の「伊勢湾の漂着ごみ」の講演や、本集いの4年間を取りまとめた「基調報告」と、「藤前干潟のヨシ原調査の報告」「河川協力団体の受託事業報告」「堀川におけるヨシ原の取組」「愛知県の若者の活動報告」の4特別報告から、人と水の循環と、交流を発展させ伝承する活動の大切さを学ぶと共に、参加団体それぞれの「思いと活動」を報告し合い・交流しました。

5回の「集い」を通して、「ごみと水を考える」ネットワークづくりに賛同頂いた団体は55団体を数えるになりました。また、今回の集いへの報告書にある各団体が、1年間に企画・計画する各種取組が、引き続き、ゆうに500企画を超え、毎月、毎週、各地で環境活動等が展開され、参加予測（昨年実績）延べ参加者数は16,000人を超えています。

2012年1月に「第1回ゴミと水を考える集い」を開催し、7項目アピールを採択し、みんなで「答志島にゴミ拾いに行こう」と確認したことを契機に「22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」が結成されました。その後の4年間で、5回の奈佐の浜清掃活動と3回のエクスカージョン活動につながりました。流域エクスカージョンは3県を一回りし、今年は2回目の岐阜県を迎えます。

奈佐の浜プロジェクトの活動に参加した多くの団体が、自らのフィールドでの取組の大切さと、流域一体の清掃活動の強化と啓発活動が重要なことを再認識されているのではないのでしょうか。

本日の、「第5回ごみと水を考える集い」で、私たちが水の循環で繋がっていること。そして、上流から下流・海へと流れ着くゴミでも繋がっていて、伊勢・三河湾につながるすべての流域が一緒になって、それぞれの流域・地域が一体となって清掃活動や啓発活動を行うことの大切さを再認識しました。各地の活動団体と人が繋がり・交流・連携を強めることもできました。

ゴミを拾うのは人間ですが、捨てるのもまた人間です。人間だけがゴミを造り、ゴミを出して自然環境を痛めつけています。私たち人間の責任で「ゴミが生まれない社会創り」の実現をめざしましょう。

私たちは、呼びかけます。

- 子どもたちが安心して元気に遊べる水辺を取り戻しましょう。
- たくさんの生きものたちが生息する場を取り戻しましょう。
- ごみを見つけたら勇気を出して拾いましょう。
- ごみを捨てない大人と子どもをはぐくみましょう。
- ごみが生まれない社会を創りましょう。
- 山、川、里、海それぞれで活動する人どうしの繋がりをつくりましょう。
- 流域全体で人と自然が共生する環境を創りましょう。

2016年1月24日

第5回藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い参加者一同

<アピールを採択した第5回ごみと水を考える会参加の市民団体等>

IPG(産業廃棄物専門家委員会)、愛地クリーンプロジェクト、伊勢・三河湾流域ネットワーク、生田川マモロード会、かすがい環境まちづくりパートナーシップ、NPO法人香流川をきれいにする会、黒川ドリーム会、庄内川川ナビ歩こう会、庄内川アダプト「クローバー」、新川をよみがえらせる会、NPO法人地域の未来・志援センター、中部大学応用生物学部上野研究室、中部大学ボランティア・NPOセンター、土岐川・庄内川源流森の健康診断実行委員会、NPO 法人土岐川・庄内川サポートセンター、土岐川・庄内川流域ネットワーク、NPO 法人堀川まちネット、(有)東海バイオ、名古屋市稲永スポーツセンター、22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会、藤前干潟クリーン大作戦実行委員会、NPO法人藤前干潟を守る会、三郷の川を美しくする会、矢田・庄内川をきれいにする会、四日市大学環境情報部、四日市ウミガメ保存会

<アピールを採択した第5回ごみと水を考える会参加の行政・公的機関>

愛知県環境部、愛知県建設部、三重県環境生活部、名古屋市環境局、名古屋市緑政土木局、環境省中部地方環境事務所、国土交通省庄内川河川事務所、清須市建設部、名古屋港管理組合